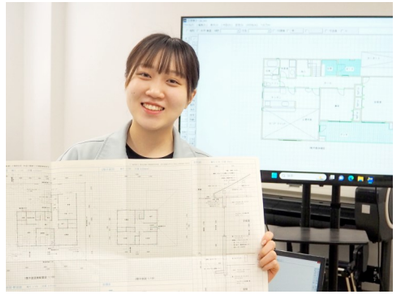
【青森県立弘前高等技術専門校建築システム工学科で建築の基礎を学びました】

青森県立弘前高等技術専門校　建築システム工学科2年　小山内　陽菜

私は将来、自分で自分の家を設計できたらと思い、弘前学院聖愛高等学校の普通科を卒業後に青森県立弘前高等技術専門校の建築システム工学科に進学しました。高校時代は建築とは無縁だったこともあり、自宅から通学できて建築を学ぶことができる専門学校を探していたところ、青森県立弘前高等技術専門校があり、毎年７月にオープンキャンパスが開催されていたので、「職業能力開発校はどういう学校なのかな？」という気持ちでオープンキャンパスに参加しました。体育館で行われた全体の説明会では、建築システム工学科で学べることや取得できる資格、就職企業の実績などを知ることができ、先輩との個別相談会では受験の対策方法や先輩方から学校生活ついても聞くことができました。実際にオープンキャンパスに参加してみると、担当する先生や先輩が優しくて学校全体の雰囲気もよく感じました。建築システム工学科は、自分が就職したい業界への就職率も高く、修了生のほとんどが県内企業に就職していたことも驚きました。説明会で話を聞いて、この学校に進学して建築の知識と技能を身に付けようと考えました。

１年生の実習では入校直後から行っていた手工具の整備が終わると、実際の柱材を使った木材加工の練習に入りました。はじめは「ホゾ」と呼ばれる柱の先端部分をノコで加工し、続いて「ホゾ」を差す「ホゾ穴」をノミと玄翁を使って加工しました。実際に作業をしてみると「ノコ引きでは、部材に描いた加工線どおりに切ることが難しい」「ノコで切った後に部材の木口に段差ができてしまう」「ノミでホゾ穴を掘るにはノミが切れないときれいに部材を加工することができない」ということが分かりました。１年生の前期で基本的な技能をしっかり身に付けながらどうすればうまくいくか試行錯誤をしながら取り組むことができました。後期には今まで身に付けたに建築のスキルを確認するため、クラス全員が２級建築大工技能検定に挑戦し、お互いに切磋琢磨することができたので、検定試験に無事、合格することができました。

ＣＡＤ設計製図の実習ではＣＡＤの基本操作を行いました。授業では、Jw_ＣＡＤを使用しており、パソコンがあれば誰でも利用できるフリーのソフトウェアとなっているので、Jw_ＣＡＤは建築業界でも大きなシェアを占めているソフトとの説明があったので、在学中に操作方法をしっかり覚えようと思いました。実際に使ってみるとＣＡＤの操作もシンプルで汎用性も高く、建築業以外にもいろいろと利用されていることを改めて実感しました。



授業では基本操作の説明を受けてから、簡単な住宅の平面図を作成しました。日常生活であまりパソコンに触れる機会がありませんでしたが、１～２時間で基本操作ができるようになりました。授業を受けた後は「覚えるとＣＡＤって面白い！」「もっといろいろな図面を描いてみたい」と考えるようになり、もっと設計のことを学び「将来は建築士の資格を取得してお客様が心から喜んでもらえる家づくりをしたい」と思いました。

施設見学では、木造建築物と住宅設備について広く理解することと、教科書で学んだものを実際に自分の目で確認をするため、青森市にある全仏山青龍寺の五重塔と株式会社LIXILショールーム青森を見学しました。青龍寺五重塔は39.35mの高さを有し、木造五重塔としては京都以北では最大のものとなっていました。見学では五重塔内部と心柱について、青龍寺の住職からご説明をいただきました。心柱は吊り心柱構造を採用しており、塔に施された免震構造の工夫について学ぶことができました。また、株式会社LIXILショールーム青森では、先進的なトイレ、浴室、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの商品を実際に触れたり、コーディネートされている住宅設備の一部を体験することができました。今回の施設見学を通して、将来の建築分野に就職する私たちにとって、建築の伝統的技術から最新の住まいの知識を得ることができました。

インターンシップでは、株式会社ヤマノアーキデザインと株式会社蟻塚建築設計事務所で実務実習を行いました。株式会社ヤマノアーキデザインでは最初の会社概要の説明会で、自分が思い描いていたことと会社の経営方針にたくさん共感することができ、とてもお客様を大切にしている会社という印象を持ちました。作業ではＣＡＤの３Ｄパースを使って図面を描いたり、五所川原市にある住宅展示場の見学を行い建築の奥深さを学ぶことができました。また、株式会社蟻塚建築設計事務所では、家が建つまでの工程を学びながら主に模型製作の作業をしました。実習期間中にコミュニケーションミーティングや定例会議にも同席させていただくことができ、手掛けた建物が「カタチ」になっていく工程を目の当たりにして、とてもやりがいのある仕事だと思いました。